

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ラベンダー			
○保護者評価実施期間	R8年 5月 25日		～	R8年 6月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27名	(回答者数)	27名
○従業者評価実施期間	R8年 6月 16日		～	R8年 6月 23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 6月 23日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画書を作成する時は、保護者様のニーズや職員の意見を上手く取り入れ、支援も計画書に添った一貫した支援が行えています。	作業療法士や保育士、社会福祉士の意見を出し合い、上手に取り入れています。 解らないことがあれば、随時調べて、適切な支援が行えるよう工夫しています。	新しい職員が増えた場合にも、方針がバラバラになったりズレないよう、研修を繰り返し、一貫した支援を行えるよう継続していきます。
2	毎月、5領域+それぞれの子ども達に合った専門のトレーニング(ビジョン・手先・運動等)を考え、年間を通して、いろいろなプログラムが受けられるようになっています。最近、粗大運動も追加し、よりプログラムが充実してきました。	それぞれの課題を職員が役割分担をして、幅広いプログラムを考案しています。お子さまのレベルに応じて、課題内容を構成しており、難しい場合には、スモールステップで組める内容も考案しています。	引き続き、特性に応じたプログラムの考案を継続していきたい。プログラムを実施した後は、振り返りの時間を持てるよう、翌朝みんなで話し合う時間を作り、反省点や改善点等の話し合いも入れていきます。
3	経験のある支援員が多い。 施設内でも、相談しながら、新しいことにチャレンジすることもあります。	日々、知識が向上するよう、新しい取組を行い、考察を続けている。外部研修も積極的に受けています。	引き続き、定期的な研修をしたり、職員間で解らないことを相談し合って、知識の向上に努めていきたいです。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	他の園などに行き、子ども達と触れ合う機会がなかった。	今まで、利用児のほとんどが、どこかの園を利用していたため、あまり計画に入れていませんでした。	どこの園にも通われていないお子さまや他のお子さま達と触れ合う機会が少ないお子さまがいた場合は、午前中などの時間を使って、近隣の園と関わる機会をつくっていききたいです。
2	全ての保護者に対してペアレントトレーニングが、出来ていなかった。	保護者様からご相談があったり、見学に来られた際には、一つ一つの内容について慎重にお答えさせて頂いていましたが、ご相談や見学でお会いすることがなかった場合には行えていませんでした。	今後は、全ての保護者様に対して、お子さまの発達特性やそれに応じたトレーニング内容などをプリントにまとめ、お便りと一緒に配信する等の取り組みを行っていききたいと考えています。
3	保護者様同士での交流する機会がなかった。	事業所が開所している時間帯で、交流できる時間や場所をどうするかで悩んでいました。	今後は、夏祭りやクッキング、クリスマス会などの機会を利用して、保護者様も参加できるようにし、交流できる場を作っていきたいと考えています。まずは、年に1回からのペースで様子をみながら開催していきます。